



© Laura Stevens

庄司紗矢香 ジャンルカ・カシオーリ

Sayaka Shoji & Gianluca Cascioli Duo Recital

—— デュオ・リサイタル ——

2026年3月6日(金) 19:00開演
サントリーホール

7:00 p.m. Friday, March 6, 2026 at Suntory Hall

主催：ジャパン・アーツ

協力：ナクソス・ジャパン

50

おかげさまで50年
JAPAN ARTS

PROGRAM

モーツァルト:ヴァイオリン・ソナタ第24番 ヘ長調 K.376

W. A. Mozart: Violin Sonata No.24 in F major, K.376

- 第1楽章：アレグロ 1st Mov.: Allegro
- 第2楽章：アンダンテ 2nd Mov.: Andante
- 第3楽章：ロンドー・アレグレット・グラツィオーソ 3rd Mov.: Rondo. Allegretto grazioso

ブラームス、ディートリッヒ、シューマン：F.A.E.ソナタ 短調

J. Brahms / A. Dietrich / R. Schumann: F-A-E Sonata in A minor

- 第1楽章：アレグロ 1st Mov.: Allegro
- 第2楽章：間奏曲、動きをもって、しかし速くなりすぎずに 2nd Mov.: Intermezzo. Bewegt, doch nicht zu schnell
- 第3楽章：スケルツォ、アレグロ 3rd Mov.: Scherzo. Allegro
- 第4楽章：フィナーレ、はっきりと、かなり活発なテンポで 4th Mov.: Finale. Markirtes, ziemlich lebhaftes Tempo

* * *

ダラピッコラ:タルティニアナ第2番

L. Dallapiccola: Tartiniana No.2

- 第1楽章：パストラーレ 1st Mov.: Pastorale
- 第2楽章：テンポ・ディ・ブーレ 2nd Mov.: Tempo di Bourree
- 第3楽章：プレスト・レジェリッシモ 3rd Mov.: Presto leggerissimo
- 第4楽章：変奏曲 4th Mov.: Variazioni

ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ第1番 ト長調 Op.78 「雨の歌」

J. Brahms: Violin Sonata No.1 in G major, Op.78

- 第1楽章：ヴィヴァーチェ・マ・ノン・トロッポ 1st Mov.: Vivace ma non troppo
- 第2楽章：アダージョ 2nd Mov.: Adagio
- 第3楽章：アレグロ・モルト・モデラート 3rd Mov.: Allegro molto moderato

庄司紗矢香&ジャンルカ・カシオーリ 2026年日本公演

2月26日(木)	[大阪]	住友生命いずみホール	主催：住友生命いずみホール [一般財団法人住友生命福祉文化財団]
2月28日(土)	[札幌]	札幌コンサートホールKitara 大ホール	主催：TVhテレビ北海道
3月1日(日)	[所沢]	所沢市民文化センター ミューズ アークホール	主催：公益財団法人所沢市文化振興事業団
3月4日(水)	[長野]	八ヶ岳高原音楽堂	主催：八ヶ岳高原ロッジ
3月6日(金)	[東京]	サントリーホール	主催：ジャパン・アーツ
3月7日(土)	[水戸]	水戸芸術館 コンサートホールATM	主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

PROFILE

庄司紗矢香 (ヴァイオリン)

Sayaka Shoji, Violin



©Laura Stevens

唯一無二の芸術的多様性とレパートリーへの緻密なアプローチで、国際的に認められるヴァイオリニスト。

その音楽的言語に対する非凡な洞察力は、これまで拠点を持ってきたヨーロッパと日本、二つの背景の混合に由来する。

東京に生まれ、3歳でイタリアのシエナに移住。キジアーナ音楽院とケルン音楽大学で学び、14歳でルツェルン音楽祭にてルドルフ・バウムガルトナー指揮ルツェルン祝祭管弦楽団との共演でヨーロッパ・デビュー、及びウィーン楽友協会に出演した。

1999年、パガニーニ国際コンクールにて史上最年少優勝。

以来、メータ、マゼール、ピシュコフ、ヤンソンス、テミルカーノフなど多数の一流指揮者と共演を重ねた。これまでに共演した楽団はフィルハーモニア管、ロンドン響、バルリン・フィル、ニューヨーク・フィル、チェコ・フィル、マリンスキー管、N響など多数。

室内楽ではジャンルカ・カシオーリとの15年にわたる共演のほか、ベアトリーチェ・ラナ、キアン・ソルタニ、ヴィキングル・オラフソンなど、多くのアーティストと共演しており、フィルハーモニー・ド・パリ、ウイグモアホール、サントリーホールなどで定期的によりサイタルを行っている。

また多様な芸術分野とのコラボレーションでも世界的に高く評価されており、舞踊家・振付家の勅使川原三郎とのフィルハーモニー・ド・パリでの共演のほか、安藤忠雄、杉本博司らとも精力的にコラボレーションを行っている。

これまでドイツ・グラモフォンから、ユリー・テミルカーノフ指揮サンクトペテルブルク・フィルとの録音や、メナヘム・プレスラーとのリサイタル・アルバムなどを含む11枚のアルバムをリリース。2022年と2025年には、ジャンルカ・カシオーリとのモーツァルト:ヴァイオリン・ソナタのアルバムをリリースした。

2016年、芸術分野で顕著な影響を及ぼした者に与えられる「毎日芸術賞」を受賞。2012年に日経ビジネスの「次世代を創る100人」に選出。2025年に第37回ミュージック・ペンクラブ音楽賞受賞。

使用楽器は上野製薬株式会社より貸与されているストラディヴァリウス「レカミエ」1729年製。



Sayaka Shoji

ジャンルカ・カシオーリ (ピアニスト／作曲家／指揮者)

Gianluca Cascioli, Pianist / Composer / Conductor



©Francesca Villa

1979年イタリアのトリノ生まれ。ピアノをイモラのピアノ・アカデミーでフランコ・スカラ(カルロ・ゼッキの教え子)に師事。94年ルチアーノ・ベリオ、エリオット・カーター、マウリツィオ・ポリーニ、チャールズ・ローゼンが審査員を務めたウンベルト・ミケーリ国際ピアノ・コンクールで優勝し、国際的な注目を集めた。

以来ヨーロッパ、北米、日本の主要な音楽都市に演奏の場を広げている。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ボストン交響楽団、シカゴ交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、ロスアンゼルス・フィル、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン・

フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団など著名なオーケストラと、クラウディオ・アバド、ウラディミール・アシュケナージ、チョン・ミンファン、ダニエル・ハーディング、リカルド・ムーティ、ロリン・マゼール、ズービン・メータ、ユーリ・テミルカーノフなど名だたる指揮者との共演は数えきれない。また、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ、ユーリ・バシメット、マキシム・ヴェンゲーロフ、フランク・ペーター・ツィマーマン、クレメンス・ハーゲン、ザビーネ・マイヤー、アルバンベルク弦楽四重奏団などとも共演。

録音活動も積極的に行っており、ドイツ・グラモフォン、デッカ、ノヴァリス、アルモニア・ムンディといったレーベルから数々の作品を発表。庄司紗矢香とはモーツァルトのヴァイオリン・ソナタ(ピリオド楽器による/DGG)などをリリース。

カシオーリは、作曲をトリノのジュゼッペ・ヴェルディ音楽院でアレッサンドロ・ルオ・ルイおよびアルベルト・コッラに師事。彼の作品は、いくつかの作曲コンクールで優勝し、重要な会場で演奏されている。



Gianluca Cascioli

柴田克彦 (音楽評論家)
Katsuhiko Shibata

モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ第24番 へ長調 K.376

古典派の天才ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-91)は、1777~79年のマンハイム・パリ旅行中に、ドレスデンの宮廷楽長シュースターのヴァイオリン・ソナタ集(2楽器対等の構成)を知って、同種の本格作の創作を開始した。生地ザルツブルクに戻った彼は、1780年11月ミュンヘンへ赴き、1781年3月ウィーンへ移動。5月以降は当地に定住した。そしてこの頃に作られたK.376~380とK.296の6曲のヴァイオリン・ソナタは、ピアノの弟子アウエルンハンマー嬢に献呈され、ウィーン移住後最初の出版作品となった。

1781年夏頃に書かれた本作は、その通称「アウエルンハンマー・ソナタ」の第1曲。曲集の開始に相応しい明朗快活な作品で、ロマンス風の第2楽章、ウィーンの行進曲風の第3楽章など、親しみやすい音楽が続く。

ガット弦とクラシック弓を用いてカシオーリのフォルテピアノと共にモーツァルトのソナタ集を録音し、2022年に日本ツアーも行った庄司だが、今回は通常のリコーン楽器で演奏すること。とはいえ、そうした古楽アプローチがいかにか反映されるか? 興味深いところだ。

第1楽章：アレグロ。ピアノ的な3つの主題を中心に進む、生き生きとした楽章。

第2楽章：アンダンテ。両楽器が優しく歌い交す緩徐楽章。

第3楽章：ロンドー、アレグレット・グラツィオーソ。澁刺とした主題を軸に運ばれる、ロンド形式の終曲。

ブラームス、ディートリッヒ、シューマン：F.A.E.ソナタ イ短調

1853年9月、20歳のヨハネス・ブラームス(1833-97)は、名ヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒムの紹介で、デュッセルドルフのロベルト・シューマン(1810-56)宅を訪問。それが飛躍の契機にも、恩人の妻クララへの思慕の情の端緒にもなった。そして10月27日、ヨアヒムが当地で演奏会を行い、シューマン宅を訪れることになった。そこでシューマンは彼を歓迎するためにヴァイオリン・ソナタの合作を企画。第3楽章をブラームス、第1楽章を弟子のアルベルト・ディートリッヒ(1829-1908)、第2、第4楽章をシューマンが作曲して生まれたのが本作である。この曲は、翌28日にヨアヒムとクララのピアノで演奏され、ヨアヒムは全ての作曲者を当てたという。しかし直後にシューマンは他の楽章を自作に替えた新ソナタ(第3番)を完成。またブラームス作のスケルツォは単独で出版された。なお、後者は演奏機会も多いが、全曲の生演奏はかなり珍しい。

曲は、情熱や力感や幻想味を併せ持つ、ドイツ・ロマン派らしい音楽。「F.A.E.」はヨアヒムのモットー「Frei aber einsam=自由だが孤独に」の頭文字を意味し、各楽章はF・A・E(ヘ・イ・ホ)音を基本動機としている。

第1楽章：アレグロ。哀切な主題を中心に運ばれる情熱的でロマンティックな音楽。

第2楽章：間奏曲、動きをもって、しかし速くなりすぎず。切なさが漂う、美しく短い楽章。

第3楽章：スケルツォ、アレグロ。「タタター」の「運働機」を用いたハ短調の激しい主部に、柔らかく内省的な中間部が挟まれる。

第4楽章：フィナーレ、はっきりと、かなり活発なテンポで。対照的な2つの主題に様々な動きが加わる力強い終曲。

ダラピッコラ：タルティニアーナ第2番

ルイーダ・ダラピッコラ(1904-75)は、20世紀イタリアを代表する作曲家の一人。十二音技法と旋律性を両立させた作風を確立し、特に歌劇「囚われ人」等の声楽作品で名を成した。

彼は、イタリア・バロック音楽の作曲家&ヴァイオリニスト、ジュゼッペ・タルティーニ(「悪魔のトリル」で知られる)に傾倒し、とりわけその対位法に魅了されていた。そこでタルティーニの曲をベースにしたオマージュ作品を創作。まず1951年に書いたのがヴァイオリンと室内オーケストラのための「タルティニアーナ」、そして1955~56年に書いたのが続編にあたる本作である。

この曲は管弦楽版もあるが、ヴァイオリン&ピアノ用がオリジナル。11~12分ほどの作品で、モダンな和声が進みながらも、バロック色の濃い典雅な音楽が展開される。

第1楽章：パストラレ(牧歌的、田園風)。ヴァイオリンが憂いを湛えた旋律を奏で、ピアノが控えめに伴奏する。

第2楽章：テンポ・ディ・ブーレ。力強いリズムで歯切れよく進行。

第3楽章：プレスト・レジェリッシモ(非常に軽やかに)。軽快で技巧的な音楽。

第4楽章：変奏曲。力強い主題がテンポと強弱を変えながら次々に変奏されていく。この楽章のみ他より長め。

ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第1番 ト長調 Op.78 「雨の歌」

ドイツ・ロマン派の大家ブラームスが残した3曲のヴァイオリン・ソナタは、ロマン派の同ソナタ中、屈指の名品として名高い。中でも本作は、第3楽章で自作の歌曲「雨の歌」の旋律が使われたことから、この愛称で呼ばれる人気ソナタ。とかく慎重だったブラームスは、これ以前に数曲の同種ソナタを破棄したといわれており、本作は「第1番」ながらも、46歳の年の1879年に完成された円熟の作である。1877年の交響曲第2番、78年のヴァイオリン協奏曲に続いて、南オーストリア、ヴェルター湖畔のペルチャッハで作曲された。

曲は、風光明媚な当地の空気感を反映した明るさと、ブラームス一流の寂しげな抒情性を併せ持ち、「雨の歌」に関連した主題を全楽章で用いることによって統一感もたらされている。ちなみに「雨の歌」は、雨の日の気分をうたった詩による1872年作の歌曲。また各楽章の主調が、ト長調→変ホ長調→ト短調と推移する構成も特徴的だ。

第1楽章：ヴィヴァーチェ・マノン・トロップ。甘美で憧憬を秘めた第1主題と、より歌謡的な第2主題を軸に展開され、徐々に緊張感を高めていく。

第2楽章：アダージョ。民謡風の旋律を中心に進行し、寂しげな葬送行進曲風の音楽が続く。

第3楽章：アレグロ・モルト・モデラート。ロンド形式の流麗な終曲。「雨の歌」に基づく主要主題に2つの副主題が挟まれる。



ARTIST SUPPORT

2025年度ご支援いただいた皆さま

<年間サポート>【個人サポーター】

朝妻 幸雄 天野 雅子 E.A. 伊藤 直美 M.I. 岩村 和央 K.U. 上村 憲裕 内永 大洋 榎本 英二 Y.E. K.O. 大原 志津子 片山 由美子 K.K. 神田 尚子 北村 眞 工藤 章子 小林 真希子 R.K. 相良 延利
 新貝 康司 鈴木 忠明 M.T. R.T. 武田 健二 伊達 朱実 田中 治郎 東條 Lilly K.T.
 トゥールラブ 真智子 苫米地 英人 K.N. 中村 京子 E.N. 児子 弥生 S.N. 長谷川 智子 A.H. T.H.
 樋口 美枝子 M.H. 平山 美由紀 藤野 盾臣 細沼 康子 堀之内 優子 M.H. 松尾 芳樹 E.M K.M. 真野 美千代
 三木谷 晴子 水野 靖彦 N.M. 安田 牧子 山川 和子 山崎 明日香 横谷 雅子 Akiko Yoshikawa Y.Y.
 (匿名希望 27名)

<年間サポート>【法人サポーター】

三和プリンティング株式会社 株式会社 青林堂
 三井住友カード株式会社 ロイヤルリゾート株式会社
 株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント きづきアセット株式会社
 株式会社ロジックアンドエモーション ライフプラン株式会社

2026年2月23日現在 敬称略



詳細はこちらをご覧ください。

お知らせ

現在2026年度年間サポートを受付中です。詳細は、ジャパン・アーツの公式WEBサイトおよび公演チラシ挟み込みの申込用紙等をご覧ください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 TEL.03-3499-7720 (平日11:00~17:00 年末年始を除く)